

西藏ノ文獻ニ見ユル諸種ノ名稱ヲ正當ニ解釋スルコトノ至難ナルハ一般ニ認メラル、所ナリ。然ルニ此ノ書ハ番漢ノ語ニ通達セル法成ノ譯出ニ係レバ、唐代ニ於ケル彼此名稱ノ對比ニ於テ、確證ヲ與フルモノ少シトセズ。例ヘバロックヒル氏ガ *An-se* ヲ安西ナラントシ、⁽⁹⁾ラウフアー氏ガ之ヲ焉耆ノ對音ニ近シト見タルハ、安息ニ對セシムベキノ誤ナルガ如キ、寺本氏ガ *So-byi* ヲ「ソチ」ト音ジ、⁽¹¹⁾莎車ト解シタルハ、蘇毗ノ誤ナルガ如キ、其ノ他 *Drug-gu, Hor* 等ヲ各突厥・回鶻ニ當ツルコトノ誤ラザルヲ示シ、又吐蕃國ヲ赤面國ト稱シ、兩唐書ニ吐蕃人が赭ヲ以テ面ヲ塗ルト記セルコトヲ想起セシムルガ如キヲ始メ、單ニ之ガ今丹珠爾ニ收メラル、于闐國懸記ノ研究ニ於テ重要ナル價值ヲ有スルノ外、史學研究上ノ資料トシテ尊重セラレベキ點甚ダ多シト爲ス。(羽田)

- (1) Pelliot, Notes à propos d'un catalogue du *Kanjur*. J. A. Série XI, Tome IV, pp. 142-143.
- (2) Pelliot, *ibid.* p. 143. 又薩婆多宗五事論(本書活字本所載)卷首參照。
法成ガ沙州ニ在リシコトハ其ノ譯出ニ係ル大乘四法經論及廣釋開決記(敦煌出土、巴里ビブリオテーク、ナシヨナール所藏)ノ奥書ニ、癸丑年八月下旬九、於沙州永唐寺集畢記ト見ユ。癸丑ノ年ハ唐文宗太和七年(西紀八三三年)ニ當ルベシ。支那學第三卷第五號所載石濱氏ノ「法成に就いて」に附したる抽稿書後參照。
- (3) Pelliot, *ibid.* p. 143.
- (4) 支那學第三卷第五號、石濱氏「法成について」及び、抽稿書後參照。
- (5) Rockhill, *The Life of the Buddha*, p. 231 seq.; Thomas, *Notes on Rockhill's 'Life of Buddha'*, *Ancient Khotan*, p. 583. 其ノ他今一一舉グズ。
- (6) 于闐國史所收、于闐國懸記。
- (7) Rockhill, *ibid.* p. 231.
- (8) Pelliot, *ibid.* p. 144.
- (9) Rockhill, *ibid.* p. 240, note 3.
- (10) Laufer, *Die Bru-za Sprache und die historische Stellung des Padmasambhava*, p. 4, note 2. Young Pao, 1908.
- (11) 于闐國史第二頁。